

研究業績一覧

黒木 邦彦

【著書】

- (1) 丹羽一彌・品川大輔・黒木邦彦・田村建一（編）『日本語はどのような膠着語か——用言複合体の研究——』，笠間書院，2012年10月30日（執筆箇所：「二段動詞の一段化と一段動詞の五段化」，pp. 104–21；「中古和文語の動詞派生接尾辞 -ツ-, -ヌ-」，pp. 122–37）

【論文】

- (1) 高木 千恵・黒木 邦彦・黄 永熙「奄美大島瀬戸内町におけるネオ方言の名称と評価」，真田信治・高木千恵（編）『奄美大島における言語意識調査報告』，pp. 8–19，大阪大学大学院文学研究科真田研究室，2006年2月
- (2) 黒木 邦彦・高木 千恵「奄美大島瀬戸内町の若年層の言語意識——自分のことばに対する意識とことばの弁別——」，真田信治・高木千恵（編）『奄美大島における言語意識調査報告』，pp. 20–28，大阪大学大学院文学研究科真田研究室，2006年2月
- (3) 黒木 邦彦「中古日本語におけるアスペクトとテンスの相関——主節とノチ節の考察から——」，『国文研究』52，pp. 85–102（左開き），熊本県立大学日本語日本文学会，2007年3月
- (4) 黒木 邦彦「中古日本語のトキ節に見られる文法的特徴」，『語文』88，pp. 45–53，大阪大学国語国文学会，2007年6月
- (5) 黒木 邦彦「大分県日田市方言における「-てから」の用法——「-て」「-きー」「-けんど」「-けどが」との比較をとおして——」，『阪大社会言語学研究ノート』8，pp. 87–98，大阪大学大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室，2008年3月
- (6) 藤本 真理子・齊藤 瑛子・黒木 邦彦「北海道新十津川町方言における「-のだ」の披瀝用法」，真田信治（編）『移民言語1 北海道・新十津川方言の現在』，pp. 23–30，大阪大学大学院文学研究科日本語学講座，2008年3月
- (7) 黒木 邦彦・藤本 真理子・清田 朗裕・森 勇太「中古王朝物語の会話文——地の文との境界をめぐって——」，『詞林』43，pp. 1–7，大阪大学古代中世文学研究会，2008年4月
- (8) 黒木 邦彦・藤本 真理子・清田 朗裕・森 勇太「中古和文における会話文と地の文の境界」，『語文』91，pp. 60–68，大阪大学国語国文学会，2008年12月
- (9) 黒木 邦彦「富山県五箇山地方楮地区老年層方言の動詞派生接尾辞 -jar-」，『甲南女

子大学研究紀要』48 (文学・文化編), pp. 23–30, 甲南女子大学, 2012年3月
https://konan-wu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1110&item_no=1&page_id=13&block_id=17

- (10) 黒木 邦彦「過去表現の構造とその変化」, 高山善行・青木博史・福田嘉一郎 (編)『日本語文法史研究』, ひつじ書房, pp. 127–44, 2013年2月15日
- (11) Kuroki, Kunihiko. Verb inflection in Gokayama dialect. 『甲南女子大学研究紀要』49 (文学・文化編), pp. 17–35, 甲南女子大学, 2013年3月
https://konan-wu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1433&item_no=1&page_id=13&block_id=17
- (12) 黒木 邦彦「鹿児島県上・中甕島方言の形態音韻類型論」, 『국제학논총 (国際学論叢)』20, pp. 59–80, 계명대학교 국제학연구소 (啓明大学国際学研究所), 2013年10月 (査読あり)
<http://www.dbpia.co.kr/Journal/ArticleDetail/3410019>
- (13) 黒木 邦彦「日本語の疑問付加部の構造と意味に見られる一般性」, 『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究 研究報告書』1, pp. 69–77, 国立国語研究所, 2014年3月
<http://j-int.info/report/>
- (14) 黒木 邦彦「テ形動詞に関する音韻規則の一般性と特殊性」, 『語文』102, pp. 1–8 (左開き), 大阪大学国語国文学会, 2014年6月30日

【学位論文】

- (1) 黒木 邦彦「中古日本語動詞のアスペクト・テンス」, 大阪大学大学院文学研究科・平成17年度修士論文, 2006年3月
- (2) 黒木 邦彦「中古日本語の文法的な時間表現——アスペクト, テンス, ムードをめぐって——」, 大阪大学大学院文学研究科・平成20年度博士論文, 2009年3月

【書評】

- (1) 黒木 邦彦「清瀬義三郎則府『日本語文法体系新論——派生文法の原理と動詞体系の歴史——』」, 『日本語の研究』11-4, 日本語学会, 2015年10月

【その他出版物】

- (1) 高木 千恵・水谷 美保・松丸 真大・真田 信治 (編)『最古の富山県方言集 高岡新報掲載「越中の方言」(武内七郎)』, 桂書房, 2009年12月25日 (pp. 160–84を

転写作業)

- (2) 黒木 邦彦「日本語の述部構造の分析方法について」、『筑紫日本語研究』2010, pp. 83-92, 2011年6月20日
- (3) 黒木 邦彦「富山県南砺市楮老年層方言の主格尊敬語動詞派生接尾辞に見る人称の問題について」、『筑紫日本語研究』2010, pp. 155-64, 2011年6月20日
- (4) 黒木 邦彦「“二段動詞の一段化”と“一段動詞の五段化”を同時に説明するための文法——学校文法に代わる文法の提案——」、『筑紫日本語研究』2011, pp. 34-35, 2012年6月20日
- (5) 黒木 邦彦「日本語の準体助詞と名詞節」、『筑紫日本語研究』2011, pp. 122-29, 2012年6月20日
- (6) 黒木 邦彦「上甕島里方言の形態音韻論」、『筑紫日本語研究』2012, pp. 84-93, 2013年6月20日
- (7) 森 勇太・平塚 雄亮・黒木 邦彦 (編)『甕島里方言記述文法書』(人間文化研究機構連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」研究成果報告書), 国立国語研究所, 2015年3月

【学会発表】

- (1) 黒木 邦彦「中古日本語における基本形のアスペクト・テンス」, 韓国日本語学会, 於東義大学, 2006年3月18日
- (2) 黒木 邦彦「中古日本語における無標のアスペクト——テンスによるアスペクチュアルな意味の違い——」, 日本語学会・2006年度春季大会, 2006年5月14日, 於東京学芸大学, 大会予稿集: pp. 100-07 (要旨査読あり)
- (3) 黒木 邦彦「中古日本語における“過去の助動詞”とモダリティー標識の形態統語論的な共通性——文法範疇の再構築を目指して——」, 日本語文法学会・第8回大会, 2007年10月28日, 於筑波大学, 大会発表予稿集: pp. 202-09 (要旨査読あり)
- (4) 黒木 邦彦「日本語の過去時制をめぐって——過去の助動詞「-き」「-けり」の使い分けに基づく考察——」, 日本語学会・2008年度春季大会, 2008年5月18日, 於日本大学, 大会予稿集: pp. 87-94 (要旨査読あり)
- (5) 金 ユウヨン・黒木 邦彦「過去時制の使用条件に関する一考察——現代日本語, 中古日本語, 現代韓国語——」, 한국일본학연합회 제 6 회 국제 학술 대회 (韓国日本語学会・第6回国際学術大会), 2008年7月11日, 於부산외국대학교 (釜山外国語大学), 大会予稿集: pp. 148-53
- (6) 黒木 邦彦「九州の若年層が用いる接続助詞「-てから」——用法の地域差と展開について——」, 日本方言研究会・第87回大会, 2008年11月1日, 於岩手大学, 発

表原稿集: pp. 9-16 (要旨査読あり)

- (7) 黒木 邦彦「完了の助動詞「-つ」のテンス性——静的述語への後接例を拠りどころとして——」, 日本語学会・2009年度春季大会, 2009年5月31日, 於武庫川女子大学, 大会予稿集: pp. 181-88 (要旨査読あり)
- (8) 黒木 邦彦「中古和文語の述部構造に関する記述的研究——日本語の形態類型をめぐって——」, 日本語学会・2010年度春季大会, 2010年5月30日, 於日本女子大学目白キャンパス, 大会予稿集: pp. 121-28 (要旨査読あり)
- (9) 黒木 邦彦「日本語の過去表現の構造とその変化」, 日本歴史言語学会・第1回大会, 2011年12月18日(日), 於大阪大学豊中キャンパス
- (10) 黒木 邦彦「上甕島瀬上方言における清濁の対立」, 日本言語学会・第145回大会, 2012年11月24日(土), 於九州大学箱崎キャンパス, 大会予稿集: pp. 88-93 (要旨査読あり)
- (11) 黒木 邦彦「上甕島諸方言の(形態)音韻類型論」, 日本語学会・2013年度春季大会, 2013年6月2日(日), 於大阪大学豊中キャンパス, 大会予稿集: pp. 109-16 (要旨査読あり)
- (12) 黒木 邦彦「子音動詞語幹に関する交替規則の一般性と自然音類の消失」, 일본어문학회 2013년도 추계국제학술대회(日本語学会・2013年度秋季大会), 2013年10月12日(土), 於대구한의대학교 삼성캠퍼스, 大会予稿集: pp. 48-51
- (13) 黒木 邦彦「上甕島瀬上方言の音素体系に見る不透明性」, 한국일본연구총연합회 제4회 국제학술대회(韓国日本研究総連合会・第4回国際学術大会), 2014年4月12日(土), 於대전대학교, 大会予稿集: pp. 51-54

【ワークショップ等】

- (1) 黒木 邦彦「中古和文における会話文と地の文の境界——直示表現に基づく分析——」, 平成20年度大阪大学国語国文学会総会・公開ワークショップ「会話文と地の文に関する通時的・多角的研究とその展開」(企画代表者: 黒木邦彦), 2008年1月12日, 於大阪大学豊中キャンパス
- (2) 黒木 邦彦「中古日本語における完了の助動詞の文法的制約——アスペクト体系に関する一考察——」, ワークショップ「日本語アスペクトの歴史と方言」(企画代表者: 青木博史), 関西言語学会(KLS)・第33回大会, 2008年6月7日, 於大阪樟蔭女子大学, Proceedings: p. 349 (要旨査読あり)
- (3) 黒木 邦彦「日本語の名詞述語の形態統語論的特徴」, パネルセッション「日本語の名詞述語に関する形態統語論的研究——標準語研究を超えて——」(企画代表者: 黒木邦彦), 日本語文法学会・第10回大会, 2009年10月25日, 於学習院女子学

院大学, 大会予稿集: pp. 74–81 (要旨査読あり)

- (4) 黒木 邦彦「上代から中古にかけての名詞述語の変遷——述語名詞が名詞節である場合を中心に——」, パネルセッション「日本語の名詞述語に関する形態統語論的研究——標準語研究を超えて——」(企画代表者: 黒木邦彦), 日本語文法学会・第10回大会, 2009年10月25日, 於学習院女子学院大学, 大会予稿集: pp. 97–103 (要旨査読あり)
- (5) 黒木 邦彦「名詞節と主節の連続性——焦点作用域が拡張された節の観察を通して——」, ワークショップ「日本語における名詞節の脱範疇化」(企画代表者: 青木博史), 関西言語学会 (KLS)・第35回大会, 2010年6月26日, 於京都外国語大学 (要旨査読あり)
- (6) 和田礼子・田川恭識・嵐洋子・島本智美・吉里さちこ・大庭理恵子・大山浩美・黒木邦彦・甲斐朋子「「地域社会により順応するための方言教材」の開発」, 日本語教育国際研究大会・名古屋2012, 2012年8月18日(土), 於名古屋大学東山キャンパス (要旨査読あり)
- (7) 黒木 邦彦「五箇山方言の主格待遇表現の多様性」, ワークショップ「敬語運用の記述と対照——五箇山からの発信——」(企画代表者: 森勇太), 日本語学会・2012年度秋季大会, 2012年11月3日, 於富山大学, 大会予稿集: pp. 47–50 (要旨査読あり)
- (8) 黒木 邦彦「九州方言の中で見る甕島方言の音韻的・形態的特徴」, ワークショップ「甕島方言から考える方言類型論と方言接触論」(企画代表者: 松丸真大), 日本語学会・2013年度秋季大会, 2013年10月26日(土), 於静岡大学静岡キャンパス, 大会予稿集: pp. 47–50 (要旨査読あり)

【研究会等での発表】

- (1) 黒木 邦彦「形式と意味内容～現代日本語と古代日本語のテンス・アスペクト～」, 熊本県立大学日本語日本文学会, 2004年6月26日, 於熊本県立大学
- (2) 黒木 邦彦「スル形式の意味の変遷」, 第200回・筑紫国語談話会, 2005年1月29日, 於九州大学箱崎キャンパス
- (3) 黒木 邦彦「中古日本語のアスペクト・テンス——時間的限定性との相関性をめぐって——」, 土曜ことばの会, 2005年4月16日, 於大阪大学豊中キャンパス
- (4) 黒木 邦彦「いわゆる完了の助動詞「つ」「ぬ」について」, 熊本県立大学日本語日本文学会, 2005年7月16日, 於熊本県立大学
- (5) 黒木 邦彦「中古日本語における時の従属節のアスペクト・テンス——アスペクトとテンスの相関をめぐって——」, 第211回・筑紫日本語研究会, 2006年12月27日, 於九州大学箱崎キャンパス

- (6) 黒木 邦彦「『源氏物語』を資料とした「-べし」の記述的研究——形態統語論的観点から——」, 第 187 回・大阪大学古代中世文学研究会, 2007 年 3 月 24 日, 於大阪大学豊中キャンパス
- (7) 黒木 邦彦「中古日本語のテンスに見られる形態統語論的特徴——現代日本語との対照から——」, 土曜ことばの会, 2007 年 4 月 14 日, 於大阪大学豊中キャンパス
- (8) 黒木 邦彦「日本語の“過去”をめぐって——「-き」と「-けり」の使い分けに関する問題——」, 第 194 回・大阪大学古代中世文学研究会, 2007 年 12 月 15 日, 於大阪大学豊中キャンパス
- (9) 黒木 邦彦「中古日本語のアスペクト——パーフェクトと限界達成——」, 第 217 回・筑紫日本語研究会, 於九州大学箱崎キャンパス, 2007 年 12 月 27 日
- (10) 黒木 邦彦「中古日本語の文の類型とテンス・ムード——日本語の一変種として記述すべき特徴について——」, 第 128 回・変異理論研究会, 2008 年 1 月 5 日, 於大阪府立大学
- (11) 黒木 邦彦「中古日本語のアスペクト——完了の助動詞の文法的制約に基づく考察——」, 土曜ことばの会, 2008 年 4 月 19 日, 於大阪大学豊中キャンパス
- (12) 黒木 邦彦・清田朗裕「日本語におけるアスペクト表現の統語構造」, 第 224 回・筑紫日本語研究会, 2008 年 12 月 26 日, 於九州大学箱崎キャンパス
- (13) 黒木 邦彦「日本語の用言接尾辞に認められる変化の一方向性——補助用言および派生接尾辞から屈折接尾辞へ——」, 第 4 回・蛍池言語研究所公開研究発表会, 2009 年 5 月 31 日 (日), 於蛍池公民館 (ルシオーレ北館 5F)
- (14) 黒木 邦彦「熊本方言の格標示体系——日本語の活格性をめぐって——」, 第 28 回・九州方言研究会, 2009 年 7 月 4 日 (土), 於佐賀大学
- (15) 黒木 邦彦「日本語の活用——語の認定をめぐって——」, 第 227 回・筑紫日本語研究会, 2009 年 8 月 6 日 (木), 於九州地区九重共同研修所
- (16) 黒木 邦彦「富山県南砺市楮 (五箇山) の尊敬辞の形式的・意味的特徴——二人称尊敬と三人称尊敬の別をめぐって——」, 第 5 回・蛍池言語研究所公開研究発表会, 2009 年 9 月 6 日 (日), 於蛍池公民館 (ルシオーレ北館 5F)
- (17) 黒木邦彦「中古和文語のアスペクト辞 -(i)te/u- とテンス辞 -(i)tu- ——接尾辞の承接順位に基づく分析——」, 第 228 回・筑紫日本語研究会, 2009 年 10 月 10 日 (土), 於九州大学箱崎キャンパス
- (18) 黒木 邦彦・森 勇太「謙讓表現と丁重表現に関する形態統語論的研究」, 第 6 回・蛍池言語研究所公開研究発表会, 2009 年 10 月 31 日 (土), 於島根県民会館
- (19) 黒木 邦彦「日本語のテンスをめぐって——述部の膠着性と文法範疇に関する形態統語論的研究——」, 第 75 回・名古屋言語研究会, 2010 年 2 月 20 日 (土), 於名古屋大学

- (20) 黒木 邦彦「日本語の述部構造の分析方法について」, 第 232 回・筑紫日本語研究会, 2010 年 8 月 10 日 (土), 於九州地区九重共同研修所
- (21) 黒木 邦彦「富山県南砺市楮老年層方言の主格尊敬語動詞派生接尾辞に見る人称の問題について」, 第 234 回・筑紫日本語研究会, 2010 年 12 月 26 日 (土), 於九州大学箱崎キャンパス
- (22) 黒木 邦彦「“二段動詞の一段化”と“一段動詞の五段化”を同時に説明するための文法——学校文法に代わる文法の提案を兼ねて——」, 土曜ことばの会, 2011 年 7 月 16 日 (土), 於大阪大学豊中キャンパス
- (23) 黒木 邦彦「“二段動詞の一段化”と“一段動詞の五段化”を同時に説明するための文法——学校文法に代わる文法の提案——」, 第 237 回・筑紫日本語研究会, 2011 年 8 月 9 日 (火), 於九州地区九重共同研修所
- (24) 黒木 邦彦「『天草版平家物語』に見る名詞類の形態統語的特徴」, 第 287 回・日本近代語研究会, 2011 年 10 月 21 日 (金), 於高知大学
- (25) 黒木 邦彦「日本語の準体助詞と名詞節」, 第 239 回・筑紫日本語研究会, 2011 年 12 月 26 日, 於九州大学
- (26) 黒木 邦彦「日本語の節形成に見る形態と機能との対応関係」, 東北アジア言語地域プロジェクト・第 2 回研究発表会, 2012 年 12 月 9 日 (日), 於国立国語研究所
<http://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/m-2012/20121209-042/>
- (27) 黒木 邦彦「上甕島里方言の形態音韻論」, 第 245 回・筑紫日本語研究会, 2012 年 12 月 28 日 (金), 於九州大学箱崎キャンパス
- (28) 黒木 邦彦「The Phoneme System of Classical Segami Dialect Spoken on Koshiki Islands in Kagoshima Prefecture」, 第 114 回・名古屋言語研究会例会, 2013 年 7 月 27 日 (土), 於名古屋大学東山キャンパス
<http://hotarugaikegengokenkyuuzyo.web.fc2.com/page3.html>
- (29) 黒木 邦彦「日本語の不定付加部の構造的・意味的多様性」, 日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究・第 2 回研究集会, 2013 年 12 月 8 日 (日), 於大阪大学豊中キャンパス
<http://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/m-2013/20131207-038/>
- (30) 黒木 邦彦「テ形動詞の形成過程で適用される音韻規則の一般性と特殊性」, 土曜ことばの会, 2014 年 1 月 25 日 (土), 於大阪大学豊中キャンパス
- (31) 黒木 邦彦「日本語の阻害音における有声化と鼻音化の相関性」, 土曜ことばの会, 2015 年 1 月 24 日 (土), 於大阪大学豊中キャンパス

【司会等】

- (1) 한국일본어일문학회 2013년 동계국제학술대회 (韓国日本語日本文学会・2013年冬季国際学術大会)において、次の研究発表の指定討論者を務める: 하재필 (한국외국대학교・非常勤講師; 当時) 「文法化した形式にみられる主観性——類義形式「(か)と思うと」と「とたん」の分析から——」, 大会予稿集: 176-81

【教育業績】

- (1) 特別講演会「日本語の中で見る甌島方言の特徴と魅力」, 2010年9月11日, 於上甌老人福祉センター
- (2) 特別講演会「日本語の中の関西方言」, 2011年11月17日, 於甲南女子大学: ゲスト講師として松丸真大氏 (滋賀大学准教授) を招き, 特別講演会を企画・主催。
- (3) 特別講演会「現代日本語の敬語, 授受語, 受益語」, 2012年6月6日, 於甲南女子大学: ゲスト講師として森勇太氏 (日本学術振興会特別研究員 PD; 関西大学) を招き, 特別講演会を企画・主催。
- (4) 特別講演会「若年層による地域振興の現状, 可能性, 課題」, 2012年7月5日, 於甲南女子大学: ゲスト講師として山下賢太氏 (東シナ海の小さな島ブランド株式会社・代表取締役) を招き, 特別講演会を企画・主催。
- (5) 特別講演会「若年層による地域振興の現状, 可能性, 課題」, 2012年7月5日, 於甲南女子大学: ゲスト講師として山下賢太氏 (東シナ海の小さな島ブランド株式会社・代表取締役) を招き, 特別講演会を企画・主催。
- (6) 有志から成る「젊은 지식 세미나 (若い知識セミナー)」での特別講演「일본어의 문자와 표기 체계 (日本語の文字と表記体系)」, 2013年9月14日, 於아이헤이트플라잉박스 (ソウル広域市)
- (7) 次の大会で指導学生たちが最優秀賞と最優秀演技者賞を受賞: 주부신일본국총영사관 및 부산한일교류센터 주최 제 14 회 일본어연극제 (駐釜山日本国総領事館および釜山韓日交流センター主催・第14回日本語演劇祭), 2014年9月21日, 於경성대학교 예노소극장

【獲得資金等】

- (1) 薩摩川内市甌島振興事業・こしきアイランドキャンパス「甌島方言の記録と伝承」, 代表者, 2010年度
- (2) 宮地裕名誉教授記念基金・ポスドク研究支援「鹿児島県北西部方言における述部の語形成とアクセント形成」, 代表者, 2010年度

- (3) 科学研究費補助金「地域社会により順応するための「気付かれない方言」教材の作成とその方法論の構築」, 共同研究者 (代表者: 馬場良二), 2011-14 年度
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009657438>
- (4) 人間文化研究機構連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」, 班長 (代表者: 窪藺晴夫), 2011-15 年度
http://www.chikyu.ac.jp/People_Nature/index.html
- (5) 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究 (東北アジア言語地域)」, 共同研究者 (代表者: John Whitman), 2012-13 年度
<http://www.ninjal.ac.jp/research/project/a/jparchipelago/>
- (6) 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」, 共同研究者 (代表者: 金水敏), 2013 年度-現在
<http://www.ninjal.ac.jp/research/project/a/dji/>